さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

紙すきに挑戦する児童　＝南部・睦合小

最後の手すき 卒業証書作り

閉校の南部・睦合小児童

南部・睦合小の6年生は16日、同校で、和紙を使った卒業証書作りをした。同校は近隣校との統合に伴い3月に閉校することが決まっていて、最後の卒業証書作りとなった。

和紙の卒業証書作りは同校の伝統行事で、町が紙幣の原料となるミツマタの産地だったことなどから、1987年度に始まった。和紙職人宮本重男さん(79)＝身延町寺沢＝の指導の下、児童が手すきで作業している。

同日は児童14人が参加。児童は、地域のボランティアが南部町万沢で採取し、5年生のときに自分たちで皮をむいて1年間保存したミツマタを使い、宮本さんの指導を受けながら、釜で煮て木の棒でたたいてほぐした後、水で溶かし木製の枠ですき上げた。中央には校章の透かしも入れた。

和紙は天日干しした後、氏名や生年月日などを書き入れ、卒業式で児童に手渡される。学級会長の望月志龍さんは「ドロドロした液が紙の形になっていくことが印象的だった。町の誇るミツマタについて学ぶ機会にもなるので、閉校して（栄小と統合して）南部小になった後も、行事を残してもらいたい」と話した。

〈斎藤君美〉

QRコードから動画を見られます

（2026年1月17日付 山梨日日新聞18面）

問1 南部・睦合小の6年生が、和紙を使った卒業証書作りをしました。今回が最後となる理由を答えてください。

問2 和紙の卒業証書作りが、同校の伝統行事になった理由を答えてください。

問3 あなたの学校で、いつまでも残してもらいたい行事か、やってみたい行事を答えてください。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.